



西新潟中央病院

NST NEWS 第75号

NST: Nutrition Support Team

発行日：2020年7月7日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線 1304

NSTミニレクチャー第48回

～臨床栄養における漢方薬導入～

『低栄養状態の患者さんに対して、漢方薬？ それって本当に効くの？』

漢方薬と聞くと現在の医療現場で主体的に使用されている西洋内服薬に比べて、効果があまり無いと感じる事があるのではないのでしょうか？しかしNST領域において漢方薬を服用する事により症状の緩和や改善が示されています。今回NST領域で現れやすい各症状に対して使用する漢方薬について院内採用薬も含めて紹介します。

漢方薬の考え方「**気虚**」と「**血虚**」

漢方では「**気・血・水**」の3要素のバランスが重要になっており、これらが崩れると体調不良をきたすと考えられています。病気や術後、産後などで体力が低下すると「**気虚**」「**血虚**」になります。

気虚：身体「**気（エネルギー）**」が足りなくなっている状態

（身体がだるい、疲れやすい、やる気がおきない、また食欲不振、息切れ、動悸、発汗、悪寒などが生じる）

血虚：身体「**血**」が足りなくなっている状態（貧血症状や顔色が悪くなるなど）

各症状における漢方薬の導入例

（赤字は**採用薬**、青文字は**限定薬**）

- ① **慢性下痢**（**真武湯**、**人參湯**、**附子理中湯**、**桂枝人參湯**など）

（加齢に伴う腸管機能の低下が原因。感染を伴う下痢の場合は西洋内服薬と組み合わせて）

- ② **慢性便秘**（**麻子仁丸**、**潤腸湯**、**大建中湯**など）

（麻子仁丸は腸管平滑筋の緊張を改善、消化管の機能改善）

- ③ **食欲不振**（**六君子湯**、**補中益気湯**、**十全大補湯**など）

（六君子湯は食欲増進に関連するグレリンの分泌促進作用、グレリン代謝酵素阻害作用がある）

- ④ **倦怠感**（がん患者）（補気剤：**補中益気湯**、**十全大補湯**、**六君子湯**など）

（**気虚**：心身の活力低下状態、**血虚**：貧血・造血機能低下、内分泌・自律神経の低下）

補中益気湯＝体質虚弱者の気力・体力回復

十全大補湯＝胃腸の動きを高め、生命エネルギーを高める作用（補気）＋造血機能を高める作用（補血）



食欲不振を始め、下痢、便秘などの消化器症状に対する効果が複数の漢方薬で示されています。

今後のNST活動で対処に難渋した際試してみたいか？

（文責 薬剤部 村上 明男）

参考文献：日本静脈経腸栄養学会雑誌 Vol.32 漢方薬を導入した臨床栄養の新しい展開